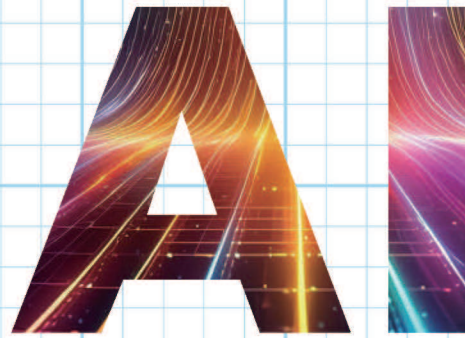


# AI技術 を次世代の がん研究に どのように取り 入れるか？



2024年12月21日(土) 14:00-15:00

オンラインシンポジウム

完全オンライン形式  
特別講演+ディスカッション

開会の辞

佐伯 浩司 (群馬大学医学部 消化管外科学 教授)

特別講演

舟橋 啓 (慶應義塾大学理工学部 理工学研究科 教授)

機械学習やAIを用いた医学研究(特になん研究)について

ディスカッション

舟橋 啓 (慶應義塾大学理工学部 理工学研究科 教授)

黒住 献 (国際医療福祉大学医学部 乳腺外科学 准教授)

尾崎 由記範 (がん研究会有明病院乳腺センター 乳腺内科 医長)

+がんプロ履修生(ディスカッサント)

『聴講』事前申込制  
※ディスカッション参加希望も  
こちらから



ディスカッション参加希望はフォームよりご登録ください

AIを用いた大規模データ解析は、腫瘍のゲノム解析や個別化治療の精度向上へつながると推察される。また、ウェアラブルデバイスやモバイルヘルスアプリケーションを通じたリアルタイムの健康状態把握は、医療提供へのつながりの最適化と人々の健康の維持に寄与することが期待されている。これらのデジタル医療技術は、将来的によりがん診療においても高度な治療法の開発と個別化医療の実現に大きく貢献することが期待されている。今後は、様々な専門家の知識の統合とデジタル技術に関する情報提供と教育の場を強化し、デジタルテクノロジーの概念をがん診療に関わる多分野に広げる必要がある。デジタル技術の進化と医療の融合により、日々多様化していくがん診療の中で、患者さんにより良い医療を提供していける環境を創造するために、臨床腫瘍学に関わる専門家が今後どのような取り組みをすべきかを大学院生のみならずとも考えていきたい。